

三芳合金がフル稼働

アルミ青銅など航空機向け好調

大和合金グループの銅合金鑄造・鍛造メーカーである三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町)の生産が繁忙だ。

航空機向け素材の製造が伸びている中、建機や半導体関連の需要が堅調に推移。現在工場はフル稼働で、部署ごとの繁閑に応じ人員を応援に出して対応している。目先についても目立ったマイナス材料はなく、大和合金の萩野源次郎社長は「いまの生産水準がこれから

も続いてくれれば」と期待している。

期待している。同社は航空機の足回りで、アルミ青銅や高力黄銅製の材料を製造している。

造。合金を鑄造や鍛造で、ブッシュと呼ばれる円筒形の素材に加工して供給している。新規の受注が伸びているほか、既存の客先でも需要が拡大。国内に加えて欧州向けも好調で、過去最高レベルの製造が続いている。

建機向けでは部品の材料として用いる銅合金の板材の生産が増加。半導体関連でも需要がシエアの拡大で板材が堅調だ。萩野社長は「鍛造や溶解鑄造など、その時によって負荷の大きい工程に人を融通し合う体制を作ってカバーしている」と話している。